

FROM THE SITE OF THE HIGH SCHOOL EDUCATION

VOL.16

高校教育の現場から

—教育相談との出会い— 予防・治療・開発まで

岩佐 繁樹



Shigeki Iwasa

千葉県立大網高等学校 教諭(地歴・公民科担当 2学年主任)

- 1960年 千葉県生まれ
- 1984年 明治大学政治経済学部政治学科卒業
同年 千葉県立京葉高等学校に赴任
- 1990年 千葉県立生浜高等学校に赴任
- 1995年 千葉県立一宮商業高等学校に赴任
- 1996年 早稲田大学大学院教育学研究科学校教育専攻
修士課程修了
- 2002年 千葉県立大多喜女子高等学校に赴任
- 2004年 千葉県立山武農業高等学校に赴任
- 2008年 同校統合により千葉県立大網高等学校に改称
- 2011年 現職

【主な著書】

『生徒指導に生かすメンタル・トレーニング』(月刊 生徒指導)
学事出版 2004年10月号～2007年3月号に連載、「子どもが劇的に変わる 学校メンタルトレーニング」学事出版 2008年

それはA子の拒食症から始まった

「ええっ。あれがA子か。うそだろ。とても信じられない」。それは大学を卒業して、初めて担任を担当したクラスの女子生徒でした。2年生の夏休みが明けると、A子は遅刻して、体育館で行われていた2学期の始業式の最中に現れました。A子の顔は頬がこけ、体は痩せ細り、腕と脚は細く、しかも骨と弾力のない皮ばかりの骸骨のような状態でした。私もクラスの生徒も一様に驚き、ついでってしまったのが、前述した発言でした。当時、教育相談はまだ生徒指

導の柱ではなく、なぜ、A子がそうなってしまったのか、全くわかりませんでした。

とにかく、暗中模索の状態で、その手がかりを少しでもつかみたいと思いい、教育相談の扉を開きました。「これは大学の教職課程でも勉強しなかった。でも確か、青年心理や教育心理というのがあったな。その関係かな」と思いましたが、たかがさわりの勉強ぐらいで、A子の拒食症の原因を理解することはできませんでした。

そこで県の教育相談の研修を受講

しました。まず第一歩は、学校や家庭での様子を観察することと家族関係、生育歴等の調査等様々な視点から生徒理解をすることでした。生徒理解が進むと、なぜこのような問題が生じたかという仮説を立てます。そしてその仮説から今後の指導方針が見えてくるということでした。何か複雑で、このようなことが自分ができるだろうかと不安を抱えながら、A子に関わっていききました。結果的に、なぜ拒食という症状になったのか、もっとA子のことを知りたいという当時のエネルギーがA子を通して教育相談の勉強にのめり込みきっかけになりました。

教育相談には、「予防」・「治療」・「開発」の分野があります。この各分野の中で、私は「治療」と「開発」の2分野に注目しました。まず「治療」は適応が難しく専門家の援助をもらいながら関わっていくことです。一般の教師は、教科のスペシャリストであるのでここまで踏み込むことはありません。臨床心理学を専門としたカウンセラーがタッチする領域です。

